

梅雨の合間 久しぶりに東京・柏の仲間と会ってきました。

帰りに、朝一番の新幹線に飛び乗って長野へ

きっちりとした装備していなかったので、戸隠の縦走は出来ませんでした。戸隠の原生林の森に入って一日森林浴。若緑一色の森に入るとほっとします。

また、戸隠奥社の森には樹齢600年以上の杉の並木道が残っていました。これだけ大きいとやっぱりすごいです。小鳥の声と湿原の水のせせらぎ聞きながらゆつたりと・・・



信州 戸隠山山麓 戸隠神社 奥社・鏡が池・森林植物園周辺 2004.6.19.

鋸歯のように尖った戸隠の峰々 ここは古くから知られた修験道の山

やっぱり、湿原の水溜りには鉄分がしみだし、赤茶けた水が溜まっていました。

湿原に生える葦などに吸い寄せられる鉄分がそれらが堆積してできる「高師小僧」「鬼板」「すず」各地に残る古い宮の「鈴・すずの神事」は この植物の根に吸い寄せられた鉄に起源をもつという。

最近頭に描いているのですが、

「たたら製鉄」の前、「野だたら」の時代に朝鮮半島からの高品質の鉄輸入と平行して、この草木の根に溜まった褐鉄鉱を使って製鉄がトライされていたのではないか。。

各地に残る「すず神事」ならびに神話・古事に残る伝説そして「たたら」製鉄とはいまだ無縁の地にある製鉄関連地名などがこの品質はよくないが比較的低い温度で精錬がスタートする可能性がある褐鉄鉱を使った鉄精錬地と関係するのではないか

この日本先進の技術と後から半島から入ってきた鉄の技術 それらが競争・融合して「たたら製鉄」が構成されたのではないかと。そう考えると日本誕生にかかわる数々の謎が見えてくるように思います。卑弥呼につながる鉄 じっくり考えたいと思っています。

